



三原台中だより

令和7年5月15日発行
練馬区立三原台中学校
校長 山崎 二郎



「一期一会」

校長 山崎 二郎

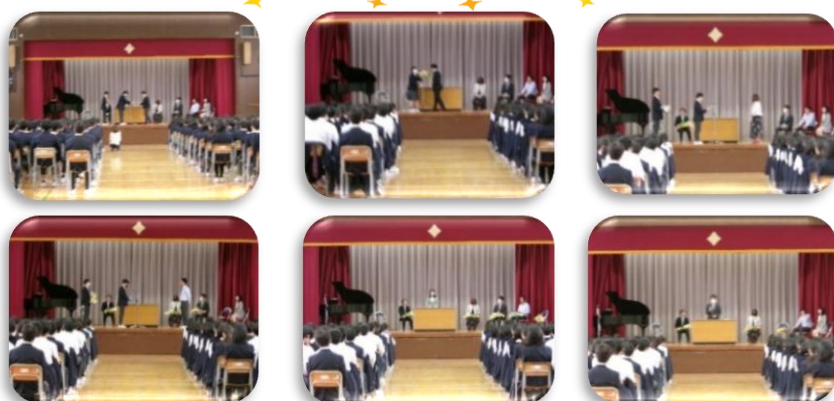
新年度がスタートしてから1か月が経ちました。ここまで、生徒たちは元気に学校生活を送っています。その一方で、5月は新しい生活に慣れた頃で、緊張が少しほぐれ、それとともに疲れが出てきて、心や身体に影響が出始める時期でもあります。特に1年生にとっては、初めての中学校生活で、これまでの環境とは違う中、不安と緊張で過ごしてきたことと思います。ぜひ、睡眠や休養、食事、適度な運動といった規則正しい生活を心がけ、明るく元気に逞しく1学期を乗り切ってほしいと思います。

さて、4月25日に離任式が行われました。新年度を迎え、新たな毎日をスタートさせた三原台中生ですが、お別れの春を実感する時間となりました。三原台中生の挨拶や歌声の素晴らしさ、「アンパンマンのマーチ」の歌詞のことなど、離任される先生方一人一人の最後のメッセージを、生徒たちはしっかりと受け止め、心に刻み込んでいました。式の最後に離任した先生方と一緒に歌った校歌は、これまでの思い出や感謝の気持ちが込められた心に響き渡る歌声でした。お世話になった先生方、本当にありがとうございました。

人との出会いや物事を行う機会などにおいて、一期一会という言葉がよく使われます。一期一会とは、一生に一度限りの出会いのことで、その時の出会いを二度と巡り会える機会がないものと心得て、一つ一つの出会いを大切にすべきである、という茶道に由来する言葉です。

ところで、人が一生で出会う人の数は何人ぐらいだと思いますか。人生を80年として考えた場合、何らかの接点をもつ人が30,000人、同じ学校・職場や近所の人が3,000人、親しく会話をもつ人が300人、友人と呼べる人が30人、親友と呼べる人が3人だそうです。(統計的な数のため、実際には出会いの数は人によって異なります) 確率に直すと、友人と呼べる人と出会う確率は、約2億8000万分の1で、親友と呼べる人と出会う確率は、なんと約28億分の1になります。人との出会いが天文学的奇跡だということは、この数字を見ると明らかです。奇跡のように巡り合っているからこそ一つ一つの出会いを大切に感謝していきたいですね。

お世話になりました!



開校記念日

5月1日は、三原台中学校の開校記念日です。開校48年の歴史は、保護者・地域の皆様に支えていただいた歴史でもあります。深く感謝申し上げます。

私たち教職員も、開校48年の歴史の重みを感じながら、子どもたちの教育のために尽力してまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

特別支援教室（MY STEP UP ROOM）

本校には、生徒の特性に応じた特別な指導を行う特別支援教室（MY STEP UP ROOM）があります。「コミュニケーションがうまくとれない」「集中し続けることが難しい」「他の生徒と同じペースで学習することが難しい」など、生活面や学習面での困っていることの改善を目標に、週に1時間程度、教室での授業を離れて、個々の課題に応じた指導を受けることができます。指導は、巡回指導員2名が毎週金曜日に拠点校（八坂中学校）から来校して行います。

通室は、校内および教育委員会の会議を経て決定します。お子さまの発達について気になる方は、担任に御相談ください。また、指導を受ける生徒が安心して利用できるよう、皆様のご理解をお願い申し上げます。

校内別室登校支援（ほっとルーム）

今年度より、練馬区の施策として「不登校対応巡回教員」の配置と「校内別室登校指導支援室」の設置が行われます。

本校では「ほっとルーム」という名称で火・水・金曜日の10:00～13:30に開室します。

別室登校指導支援員は、昨年度まで本校で心のふれあい相談員として勤務していた大橋先生です。不登校対応巡回教員は、毎週水曜日に拠点校（谷原中学校）から来校します。

※スクールカウンセラーの勤務日（藤井先生） 水曜日 8:30～17:00

※心のふれあい相談員の勤務日（加藤先生） 月・木曜日 10:00～16:00